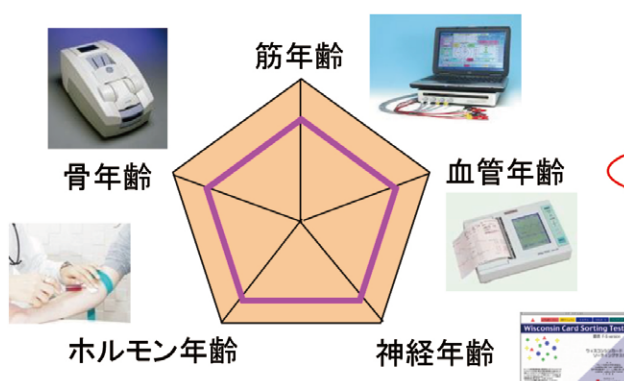


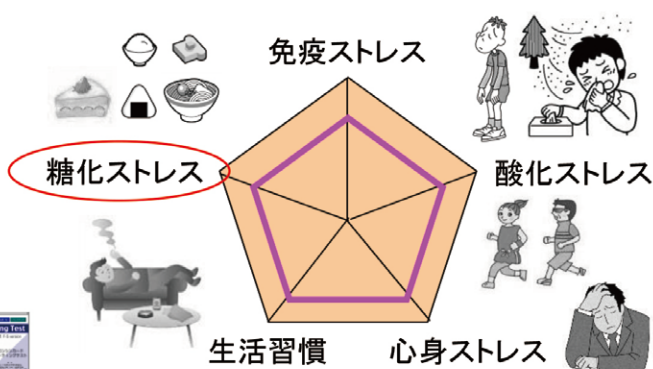
老化を一つの病気と位置付け、人の出生から死亡に至るまでの過程で生じる現象を科学的にとらえ、その成果を生活習慣病をはじめとする様々な疾患予防やストレス疲労・免疫低下などの疾病発生促進因子の改善に役立て、国民の健康促進に寄与する研究を行なっています。

また、老化の危険因子として糖化ストレスに着目し、アンチエイジング医学の観点から総合的に研究しています。

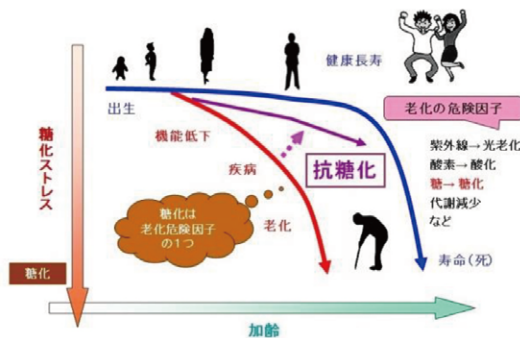
老化度の診断



老化の危険因子



糖化は老化



生命活動を維持する上で不可欠な物質であるブドウ糖が蛋白質と共存すると、非酵素的に反応し褐変変化や硬化を特徴とする不可逆的な変性を起こします。例えば、皮膚の蛋白質が加齢に伴って糖化すると、**蛋白糖化最終生成物 (advanced glycation endproducts ; AGEs)**の蓄積によって、肌のくすみやハリ・弾力性の低下を起こします。



牛皮の糖化モデル

主な研究テーマ

- ・ 老化度の診断と評価方法（アンチエイジングドック）の研究
- ・ 地域医療や企業健診へのアンチエイジング健診の普及
- ・ 生体内の糖化生成物測定方法の研究
- ・ 抗糖化素材（食品・化粧品）や成分の探索
- ・ 糖化生成物の分解・排泄経路の解明
- ・ 食品中のAGEs研究

アンチエイジングドック、地域医療、企業健診などによって収集した膨大な生体情報を通して、加齢に伴う身体の状態変化や老化の進展度合いを評価し、**オプティマル・ヘルス**を保ち、**健康長寿**を目指す方法について研究しています。

また糖化ストレスに着目して、体の糖化が老化におよぼす影響の解明、天然物中に含まれる抗糖化成分の探索や作用メカニズムの解明にも取り組み、**ラボ実験から臨床研究まで**幅広い研究をしています。

得られた研究成果は、健康食品、化粧品、健康・予防医療施設など、様々なところで実用化されています。

